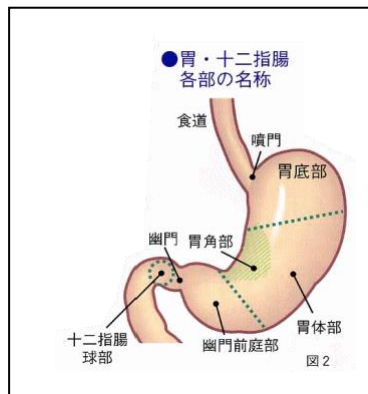


胃十二指腸潰瘍

消化器科 高田 佳子

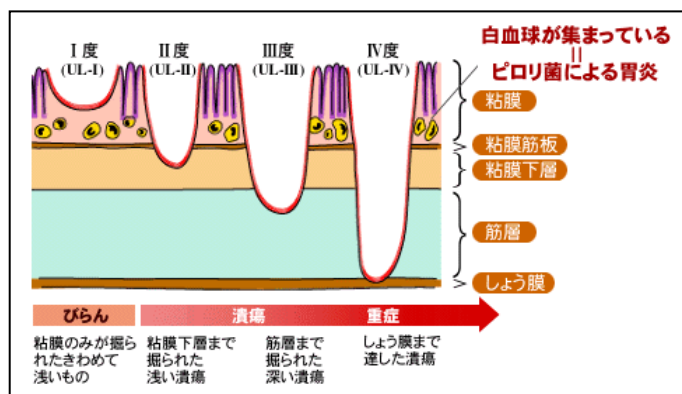


1) 胃はどんな形と動きをしているのでしょうか

胃はおなかの中央部からやや上方にある大きな袋状の臓器で、口に近い部分から噴門部、胃底部（穹窿部）、体部、前庭部という名前で区分されています。胃の一番内側の粘膜層は食べ物と接する部分で、粘液や消化酵素、塩酸などを分泌するさまざまな細胞から成り立っています。

2) 胃潰瘍とはどんな病気なのでしょうか？

胃潰瘍は胃の壁が傷つけられて欠損を生じた状態です。十二指腸にも同じような潰瘍ができることが多く、これを十二指腸潰瘍と言います。胃潰瘍と十二指腸潰瘍をまとめて消化性潰瘍という場合もあります。胃の壁にできた傷（組織欠損）の深さによって、粘膜層だけの浅い傷の場合はびらんと呼び、粘膜下層以上の深さに及ぶ傷を潰瘍と定義しています。



3) 胃潰瘍はどうしておきるのでしょうか？

以前は、酸やペプシンなどの攻撃因子と粘膜血流や粘液などの防御因子のバランスが崩れて攻撃因子の方が優勢になった場合に潰瘍が生じるというバランス説で説明されてきましたが、バランスが乱れる原因についてはよくわかってはいませんでした。現在ではそのバランスを乱して潰瘍を起こす最大の原因はピロリ菌感染と考えられています。ピロリ菌の次に重要な原因は消炎鎮痛薬（NSAID）などの薬剤であり、現在では胃潰瘍のほとんどはこの二つのどちらか、あるいは両方が原因となっています。



4) 胃潰瘍の症状はどのようなものでしょうか？

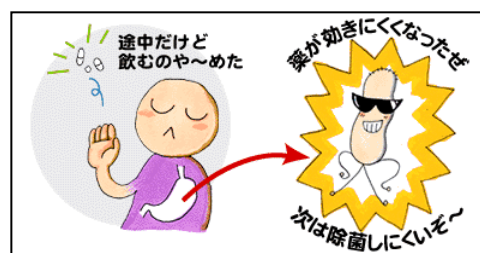
代表的なものは「みぞおちの痛み」です。鈍い痛み、焼け付くような鋭い痛み、などいろいろあります。また、潰瘍の傷の部分から出血しているときは吐血・タール便（黒色便）なども見られることがあります。それから、胸焼け・すっぱいゲップなどの「過酸症状」もあげられます。他にも、吐き気、嘔吐、食欲不振、貧血などが症状に出ることもあります。



胃角部にできた潰瘍

5) 胃十二指腸潰瘍の治療

治療薬の代表的なものにはヒスタミン H₂ 受容体拮抗薬とプロトンポンプ阻害薬があります。いずれも胃酸を抑える薬であり、これらの薬が開発されて潰瘍の手術が大幅に減りました。最近ではピロリ菌が潰瘍の主な原因であることが明らかになっており、日本では 2000 年 11 月より、ピロリ菌の除菌療法が保険で認められるようになりました。た



だし、除菌の治療は途中でやめるとピロリ菌が薬に対して耐性をもち、次に除菌しようと思っても薬が効かなくなるおそれがありますので、必ず医師の指示通りに薬を飲むことが必要です。副作用で最も多く見られるのは「下痢・軟便」です。症状が軽い場合には整腸剤などを併用することもあります。ひどい腹痛や頻回の下痢があらわれたら、すぐに主治医に相談しましょう。

6) 胃潰瘍をきちんと治すためにはどんな注意をすればよいでしょうか？

潰瘍をきちんと治すためには、治療を始めて症状がよくなっても、医師から指示された期間は薬剤の服用を継続する必要があります。これは症状がなくなっても潰瘍は治っていないことが多いからです。また消炎鎮痛薬 (NSAID) を服用すると潰瘍ができることがしばしばあるので、NSAID を処方する場合は、あらかじめプロスタグランジン製剤など潰瘍を防ぐ力のある薬を同時に処方することもあります。また最近では血管がつまらないようにするため（よく血をさらさらにするという説明がされています）低用量アスピリンや抗凝固薬（ワーファリンなど）を飲んでいる患者さんが増えています。このような薬を内服すると潰瘍になったことのある患者さんは出血する危険性が高くなりますので、必ず潰瘍の既往を先生に告げてきちんとした予防をすることが大切です。

参考文献：

胃潰瘍診療ガイドライン

胃十二指腸潰瘍とピロリ菌

武田薬品工業株式会社